

第3次やちよ男女共同参画プラン 骨子（案）

～誰もが活躍でき、尊重されるまち“やちよ”～

目 次

第1章 策定に当たって.....	1
1 プラン策定の背景	1
（1）男女共同参画を取り巻く国等の動向	1
（2）男女共同参画を取り巻く千葉県の動向	1
（3）本市における取組	2
2 第2次プランの主な実績と課題	2
（1）目標1 共に作り出す「誰もが活躍できる環境」	2
（2）目標2 互いに認め合う「個性が尊重されるまち」	2
（3）目標3 自分らしく生きる「男女共同参画の推進」	3
（4）目標4 みんなで推進する「連携した推進体制」	3
（5）まとめ	4
第2章 基本的な考え方.....	5
1 プラン策定の趣旨	5
2 プランの概要	6
（1）プランの位置付け	6
（2）プランの特徴	7
（3） <small>エスディージーズ</small> S D G s（持続可能な開発目標）への取組	7
（4）プランの期間	8
3 プランの基本理念	9
4 プランの目標	9
5 プランの体系	10
6 プランの策定経過	11
7 プランの推進体制と進行管理	12
（1）プランの推進体制	12
（2）プランの進行管理	12
第3章 施策の展開.....	13
目標1 共に作り出す	13
目標2 互いに認め合う	13
目標3 自分らしく生きる	13

目標4 みんなで推進する	13
数値目標一覧	13
資料編.....	13

第1章 策定に当たって

1 プラン策定の背景

(1) 男女共同参画を取り巻く国等の動向

国では男女共同参画社会の実現に向けて、育児・介護休業法の改正^{※1}、DV防止法の改正^{※2}、LGBT理解増進法の施行^{※3}、困難女性支援法の施行^{※4}など、近年、法律の改正等が相次いで行われています。

しかし、男女共同参画に関する国際的な指数の1つである「ジェンダー・ギャップ指数」を見ると、日本は政治及び経済分野の値が特に低いことから、世界的に見ても順位が低く、先進7カ国では最下位となっており、令和6(2024)年は146か国中118位(前年は146か国中125位)でした。

(2) 男女共同参画を取り巻く千葉県の動向

県では、令和3年3月策定「第5次千葉県男女共同参画計画」、令和4年3月策定「千葉県DV防止・被害者支援基本計画(第5次)」、令和6年3月策定「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」に基づき、各種施策を展開しています。

また、令和6年1月には、多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現を図るため、千葉県多様性尊重条例^{※5}が施行されました。

※1 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(令和3年6月改正)

【改正内容】

①個別の制度周知・休業取得意向確認と雇用環境整備の措置 ②有期雇用労働者の育児・介護休業取得要件の緩和 ③出生時育児休業(産後パパ育休)と育児休業の分割取得の改正 ④育児休業取得状況の公表の義務化

※2 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(令和5年5月改正)

【改正内容】

①保護命令の対象に精神的暴力を追加 ②被害者と同居する未成年の子どもに対する電話等禁止命令の創設 ③保護命令違反の厳罰化

※3 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律(令和5年6月施行)

※4 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(令和6年4月施行)

※5 千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例(令和6年1月施行)

(3) 本市における取組

本市では、令和3年度から令和6年度までを計画期間とする「第2次やちよ男女共同参画プラン」を策定し、各種施策に取り組んだほか、令和4年5月に「女性のための相談事業」をリニューアルし、同年11～12月に「男女共同参画社会の形成に向けての事業所調査」を行いました。また、令和5年3月に「性の多様性を認め合い行動するためのガイドライン」を策定し、令和6年1月に「八千代市の男女共同参画に関する市民アンケート」を実施しました。

2 第2次プランの主な実績と課題

第2次プランでは、目標1 共に作り出す「誰もが活躍できる環境」、目標2 互いに認め合う「個性が尊重されるまち」、目標3 自分らしく生きる「男女共同参画の推進」、目標4 みんなで推進する「連携した推進体制」の4つの目標とそれに基づく9つの課題に18の施策、37の取組事業を位置付けて、施策・事業を計画的に実施してきました。

(1) 目標1 共に作り出す「誰もが活躍できる環境」

① 取組事業の実施状況

女性活躍や男性の家事・育児参画に向けた講座の開催、男女共同参画だよりの発行、女性委員の登用促進、女性のための相談事業のリニューアルを行いました。

② 数値目標の状況

市の審議会等の女性委員割合については、令和6年3月時点で32.8%となっており、計画策定時(31.5%)を上回っているものの、ほぼ横ばいとなっています。

項目	計画策定時	実績	目標値
市の審議会等の女性委員割合	31.5% (令和元年度末)	32.8% (令和6年3月)	40%

(2) 目標2 互いに認め合う「個性が尊重されるまち」

① 取組事業の実施状況

性的マイノリティの方たちとの連携によるパネル展の実施や、市職員等の指針として「性の多様性を認め合い行動するためのガイドライン」を策定しました。また、街頭イベントや行政モニター等でのDV防止啓発のほか、相談窓口についての周知を行いました。

② 数値目標の状況

DVと認識する人の割合は、精神的暴力で78.4%、経済的暴力で78.1%、性的暴

力で 84.6%となっています。

項目	計画策定時	実績	目標値
次のような行為をDVと認識する人の割合			
・精神的暴力：交友関係や電話を細かく監視する	—	78.4% (令和5年度)	100%
・経済的暴力：必要な生活費を渡さない	—	78.1% (令和5年度)	100%
・性的暴力：避妊に協力しない	—	84.6% (令和5年度)	100%

(3) 目標3 自分らしく生きる「男女共同参画の推進」

① 取組事業の実施状況

図書館や小中学校でのパネル展示，男女共同参画視点での防災講座の開催，女性消防団員との連携，ジェンダー平等の意識づくりに向けた啓発等を行いました。

② 数値目標の状況

「夫は外で働き，妻は家庭を守る方がよい」の考えに反対する市民の割合は53.7%で過半数となっています。また，性別にとらわれず多様な生き方・働き方を選択できると感じている市民の割合は18.2%でした。

項目	計画策定時	実績	目標値
「夫は外で働き，妻は家庭を守る方がよい」の考えに反対する市民の割合	—	53.7% (令和5年度)	70%
性別にとらわれず多様な生き方・働き方を選択できると感じている市民の割合	30.4%	18.2% (令和5年度)	35%

(4) 目標4 みんなで推進する「連携した推進体制」

① 取組事業の実施状況

毎年度，プランに位置付けた事業の進捗状況調査及び進行管理を行い，庁内会議や市民委員等による懇話会へ取組を報告し意見聴取を行いました。また，男女共同参画センター支援団体や関係機関と連携し事業を実施しました。

② 数値目標の状況

第2次やちよ男女共同参画プランにおいて，達成できた事業の割合については，令和5年度時点で●%となっています。

項目	計画策定時	実績	目標値
第2次やちよ男女共同参画プランにおいて、 達成できた事業の割合	—	●% (令和5年度)	100%

(5) まとめ

第2次プランに位置付けた各取組事業は、目標4の数値目標にあるとおり、令和5年度時点で全体の●割の事業が計画どおり実施できました。しかし、第2次プランで設定した7項目の数値目標は、令和5年度時点でいずれも目標値を下回っています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の観点から、講座やイベント等の中止や開催形態の変更等が行われたことが影響していると考えられます。

次期プランに向けては、関連する施策や事業の内容を見直すとともに、より効果的な手法を検討し、プランの推進を図ります。

第2章 基本的な考え方

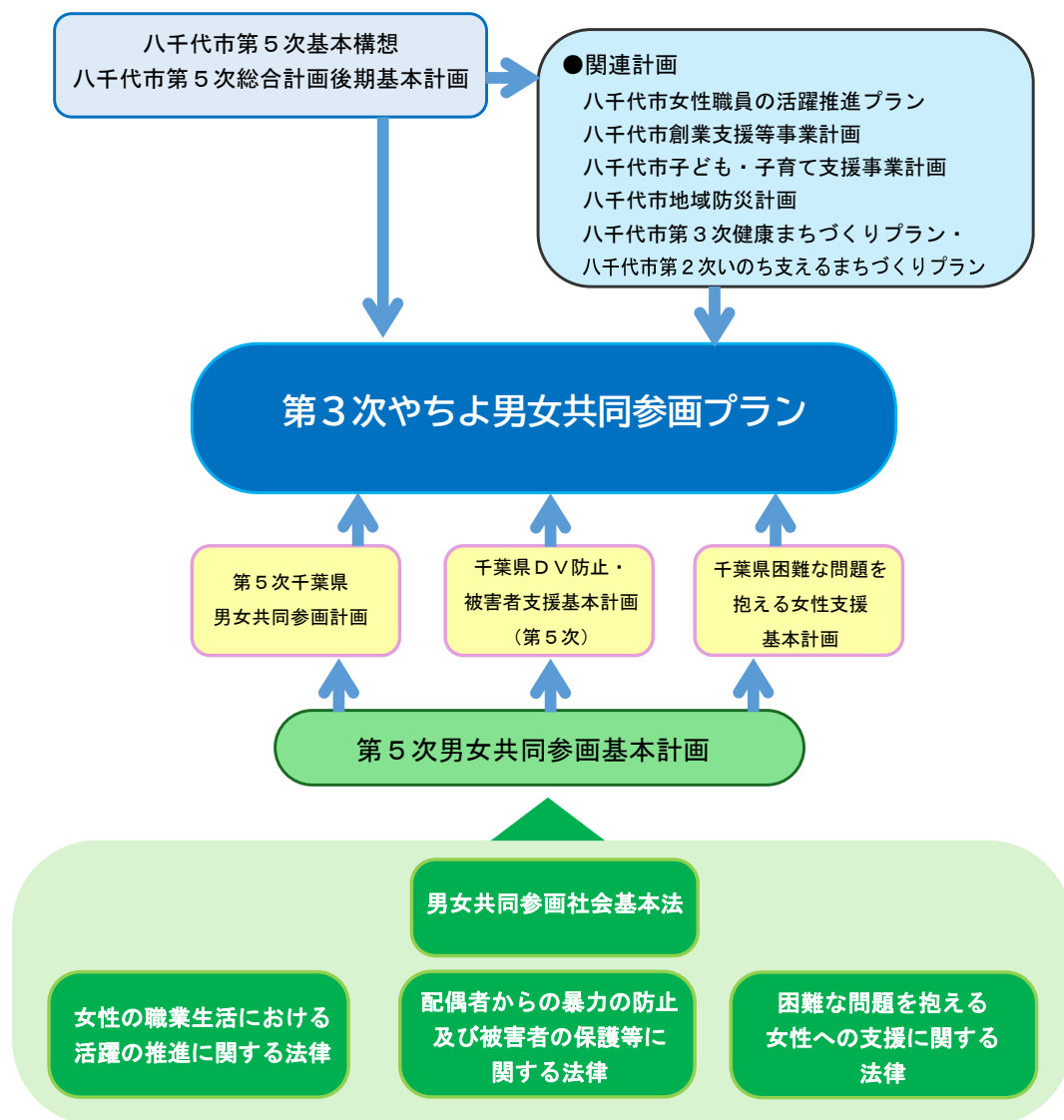
1 プラン策定の趣旨

女性も男性も互いにその人権を尊重しつつ、共に責任も分かち合い、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮することのできる“男女共同参画社会”の実現に向けて、国や各自治体では様々な取組が行われてきました。

本市においては、第2次プランの計画期間が令和6年度で終了することから、これまでの取組状況の検証や社会・経済情勢の変化等を踏まえて課題を整理し、今後4年間を見据えた男女共同参画社会づくりの指針として「第3次やちよ男女共同参画プラン」を策定します。

2 プランの概要

(1) プランの位置付け



本プランは、「男女共同参画社会基本法」第14条第3項に規定する「市町村男女共同参画計画」です。

また、本プランの目標1の課題(1)(2)を「女性活躍推進法」第6条第2項に規定する「市町村推進計画」、目標2の課題(2)を「DV防止法」第2条の3第3項に規定する「市町村計画」、さらに目標3の課題(3)施策①を「困難女性支援法」第8条の3第3項に規定する「市町村基本計画」として位置付けます。なお、関連する法令として「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」や「LGBT理解増進法」、「千葉県多様性尊重条例」などを考慮しています。

本プランは、「八千代市第5次基本構想」及び「八千代市第5次総合計画後期基本計画」ほか関連計画と整合を図り、国の「第5次男女共同参画基本計画」並びに「第5次千葉県男女共同参画計画」の内容を踏まえ、策定した計画です。

(2) プランの特徴

本プランは、男女共同参画社会を実現するための実効性のあるプランとする観点から、第1次プラン、第2次プランからの連続性に配慮する中で、市が取り組むべき内容を明確に示すとともに、現在の社会情勢に対応した見直しを行って策定するものです。

新たな課題として“ライフステージに応じた健康支援”，“いきいきと暮らすことのできる環境の整備”を位置づけます。また、第2次プランに引き続き，“さまざまな視点を取り入れた防災対応の充実”や“多様な性の尊重”の推進を図ります。

(3) ^{エスディー・ジーズ}SDGs（持続可能な開発目標）への取組

令和12年（2030年）までに世界各国が達成を目指す共通の目標であるSDGsの実現に向けて、国では令和5年12月に「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針改定版」※6を定めています。SDGsの基本的理念である「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、特に17の目標の1つである「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」は、重要な課題の1つとされています。

この「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」には、9つのターゲットが盛り込まれており、「あらゆる場所における全ての女性及び女兒に対するあらゆる形態の差別を撤廃する」「政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する」等が示されています。



※6 持続可能な開発目標（SDGs）実施指針改定版（令和5年12月）

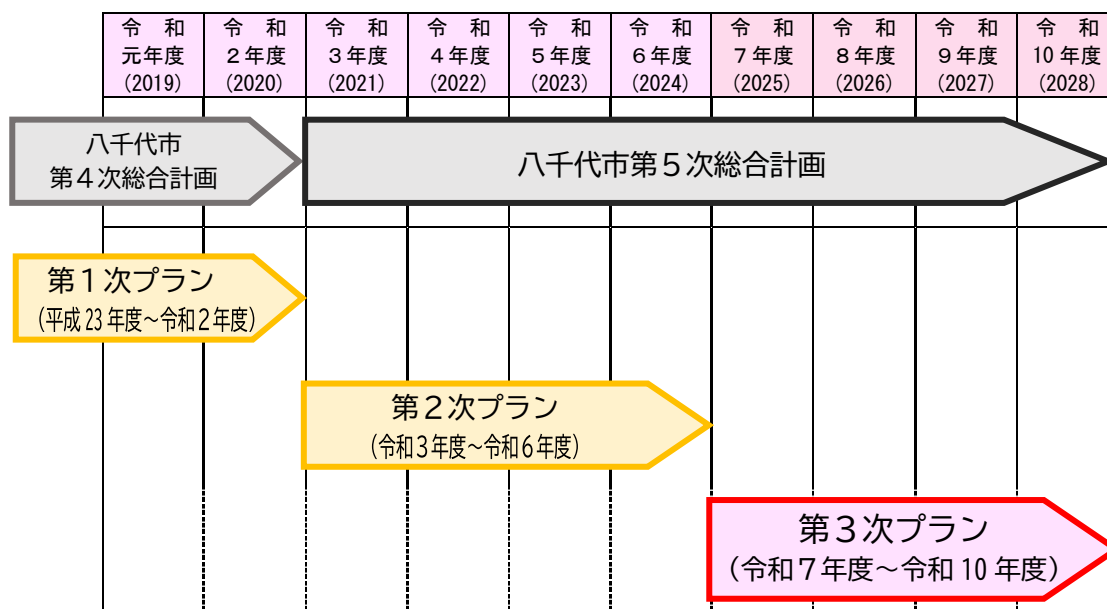
【改定内容】

これまでの根幹的な考え方を引き継ぎつつ、各目標間の相互連関に留意しながら、具体的取組を強化・加速していく8つの重点事項（「誰一人取り残さない」包摂社会の実現など）を設定。なお、これまで同様、人権の尊重とジェンダー平等は全ての目標において横断的に実現されるべきことに十分留意するものとされています。

(4) プランの期間

本プランは令和7年度～令和10年度の4年間を計画期間とします。

ただし、計画期間中であっても男女共同参画推進に関する社会情勢の変化や法令改正等により、必要に応じ見直しを行う場合があります。



3 プランの基本理念

本市は、「男女の人権の尊重」「社会における制度又は慣行についての配慮」「政策等の立案及び決定への共同参画」「家庭生活における活動と他の活動の両立」「国際的協調」といった男女共同参画社会基本法が定める「男女共同参画社会の形成についての基本理念」を十分に意識し、第2次プランに引き続き「誰もが活躍でき、尊重されるまち“やちよ”」を本プランの基本理念に位置付けて、その実現を目指します。

4 プランの目標

基本理念の実現に向けて、本プランを推進するための基本的な方向性として4つの目標を設定し、男女共同参画を推進します。

目標1 共に作りだす「誰もが活躍できるまち」

働く場における女性の活躍を推進するとともに、誰もがワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現し、それぞれの希望に応じて、家庭でも仕事でも地域社会でも活躍できる環境を目指します。

目標2 互いに認め合う「一人ひとりが尊重されるまち」

誰もがお互いを尊重して多様性を認め合い、人権に配慮した行動をとり、偏見や不当な差別のない地域社会を目指します。また、DV防止法に基づき、被害の根絶と被害者の早期発見、早期対応等に適切に取り組めます。

目標3 自分らしく生きる「いきいきと暮らせるまち」

誰もが自分らしく健やかに充実して暮らすことができるよう、固定的性別役割分担や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消、生き方に合わせた健康支援や、困難を抱える女性に対する支援に取り組めます。

目標4 みんなで推進する「人と組織が連携して活動するまち」

市民、団体、事業者などと行政が連携を図り、様々な意見や情報を取り入れながら計画を推進します。

5 プランの体系

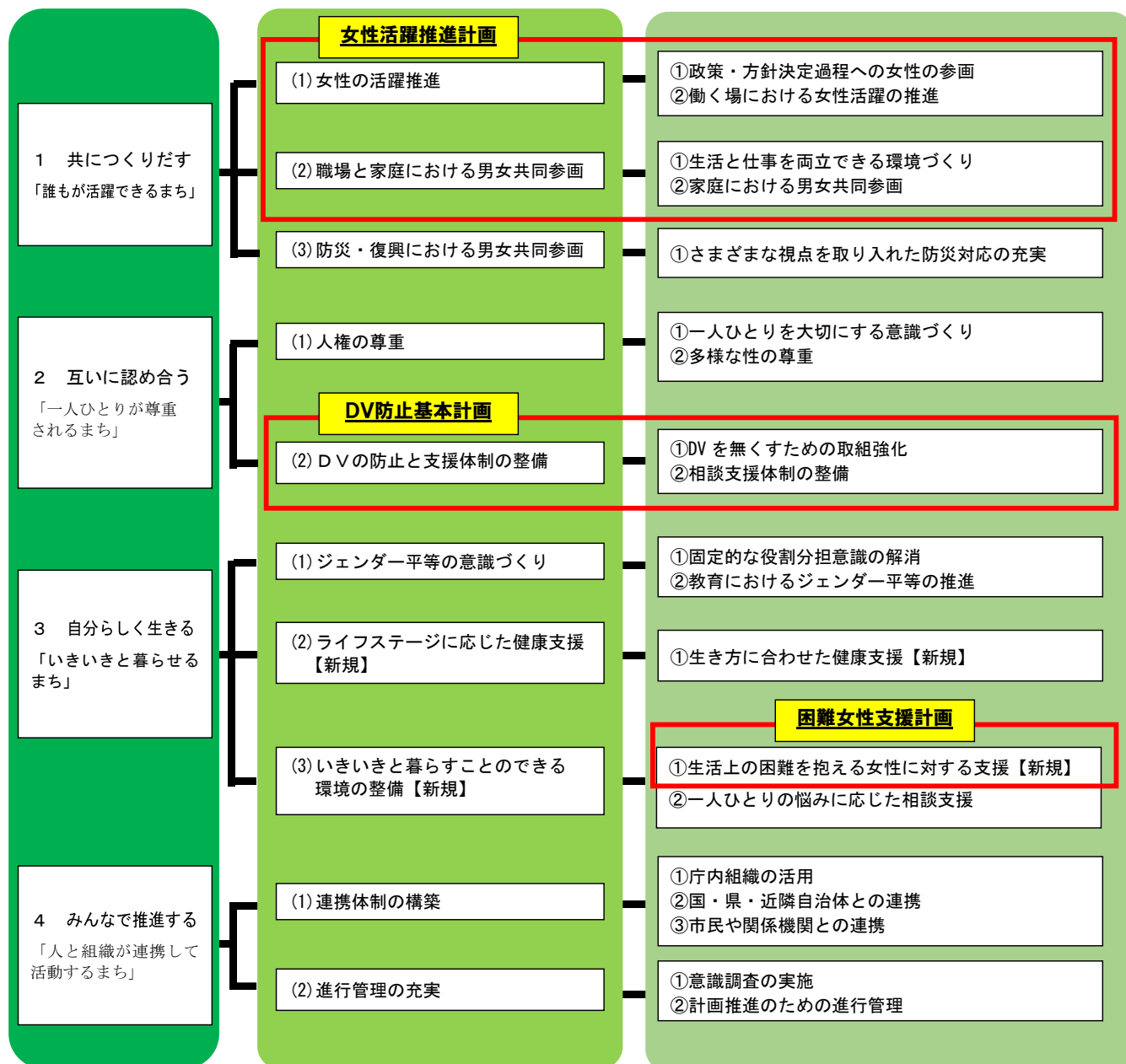
基本理念

誰もが活躍でき、尊重されるまち “やちよ”

目標

課題

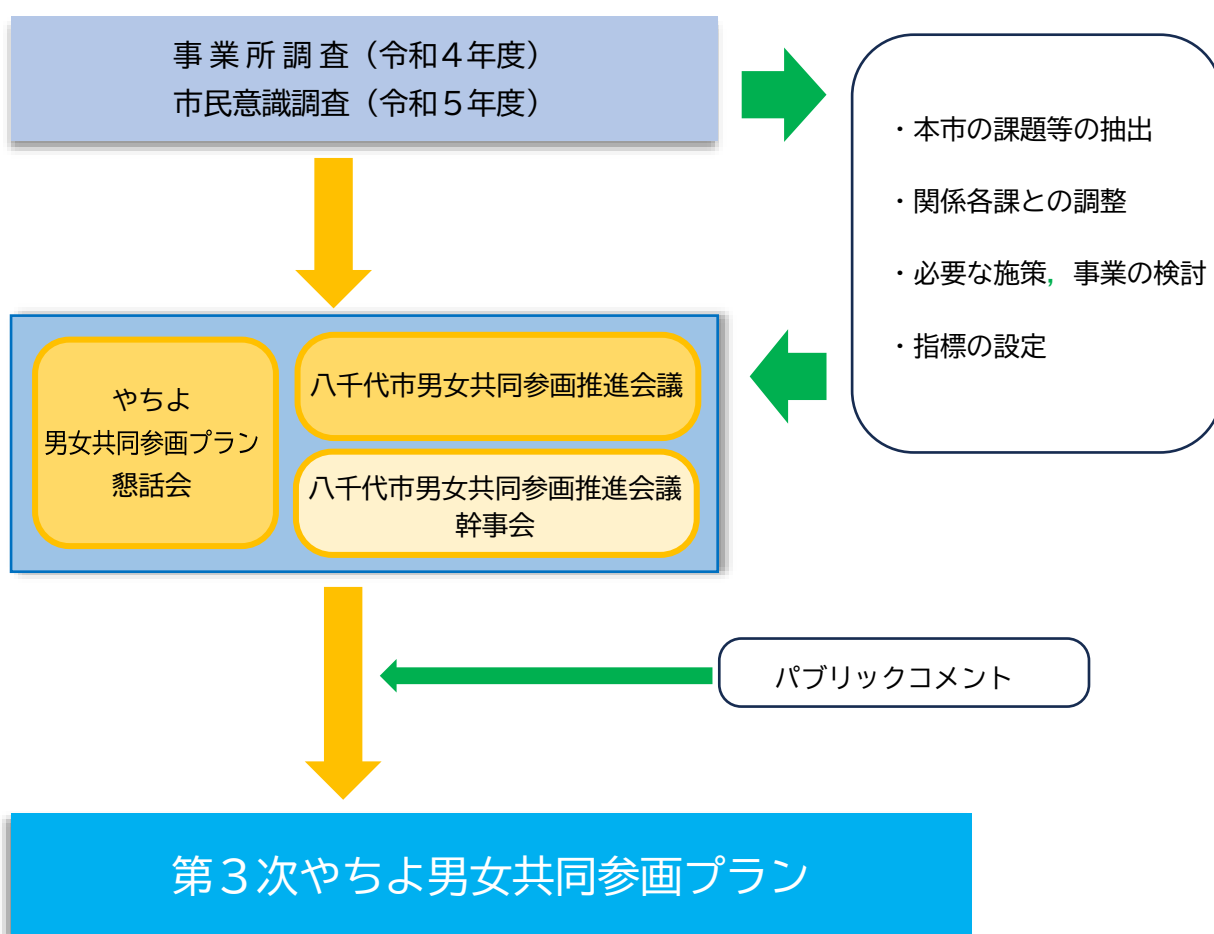
施策



6 プランの策定経過

本プランは、公募による市民委員と学識経験者で構成する「やちよ男女共同参画プラン懇話会」（以下「懇話会」という。）、市の部長級職員で構成する「八千代市男女共同参画推進会議」（以下「推進会議」という。）、市の課長級職員で構成する「八千代市男女共同参画推進会議幹事会」が中心となり検討を行いました。

また、本プランは、事業所調査、市民意識調査やパブリックコメントの実施など、さまざまな市民参画の過程を経て策定しています。



7 プランの推進体制と進行管理

(1) プランの推進体制

男女共同参画社会の実現に向けた取組は広範囲の分野にわたることから、関係部署が相互に連携しながら、全庁的に施策の展開を図る必要があります。第3次プランにおいても、推進会議が中心となって施策を総合的・全庁的に推進するとともに、懇話会からの意見を随時取り入れながら、計画の推進を図ります。

(2) プランの進行管理

第3次プランは実効性を高めるため、第2次プランに引き続き、進行管理を行う取組事業と関連計画等に推進を委ねる関連事業に分けています。

取組事業については、事業の進捗状況を毎年度評価します。その結果を懇話会及び推進会議に報告し、公表します。また、PDCAマネジメントサイクル※⁷により、懇話会及び推進会議における意見等を各所管課にフィードバックして以後の取組の改善につなげるなど、適切な進行管理を行います。

※7 PDCAマネジメントサイクル

マネジメントサイクルの一つで、Plan（計画）→Do（実施）→Check（評価）→Act（改善）のプロセスを順に実施し、継続的な業務改善活動を推進していくシステムのことです。最後の Act（改善）では Check（評価）の結果を次の Plan（計画）に反映することにより、システムを循環させていきます。

第3章 施策の展開

目標1 共につくりだす

目標2 互いに認め合う

目標3 自分らしく生きる

目標4 みんなで推進する

数値目標一覧

資料編